

2023 年度

自己点検・自己評価報告書

東アジア日本語学校
理事長 野田 舞

日本語教育機関のための自己点検・評価項目

本校は告示校として日本語教育期間の告示基準第1条第1項第18号2に規定されている、教育水準の向上と適切な業務運営を継続させる為、自己点検及び自己評価項目を設定し定期的に点検・評価を行う。

【評価】

※各項目評価方法は5段階評価とする（5～*）

| | |
|-------------------|---|
| 達成している・適合している | 5 |
| 概ね達成している・概ね適合している | 4 |
| どちらともいえない | 3 |
| 取り組みを検討中 | 2 |
| 改善が必要 | 1 |
| 該当なし | * |

1. 教育理念・目標

教育理念：「創造・切磋琢磨・自主」という校訓を掲げ、学生自ら意欲的に学び、友を認め合い、切磋琢磨して目標達成させ、創造性に富み、豊かな人間性を身につけ、幅広い視野を持ち、国際社会の平和と発展に貢献・寄与できる人間の育成を目指す。

教育目標：

○私たちは、急速に国際化が進む今日、人間尊重の精神に則り、留学生の一人一人のニーズに応じた日本語教育を行い、社会に出てから即戦力となる人間性豊かな真の国際人を育成します。

○私たちは、学生一人一人の学習意欲を高め、日本語能力を最大限引き出し、大学や大学院、短大、専門学校への進学目標を達成させます。

○私たちは、志高い留学生の一人一人に寄り添い、理解と支援に徹し、学生が意欲的に学び、自らの進路を切り開いていくことができるようにします。

○私たちは、教育目標具現化のために東アジア日本語学校の一職員として、職務の使命と責任を自覚し、協働の参加意識を高め留学生の夢の実現に全員で一生懸命に職務を遂行します。

育成する人材像：

○グローバル化に対応し、国際競争力を身につけた人間性豊かでたくましい優秀な人材を育てる。

○学生自らの学ぶ意欲を尊重し、一人一人の能力を最大限伸ばし創造性豊かな人材を育てる。

○異文化理解・相互理解を図り、共生社会に生きる人材を育てる国際教育を目指す。

| | 評価項目 | 評価 |
|-----|------------------------------|----|
| 1-1 | 教育理念・目標が明確に定められているか | 3 |
| 1-2 | 教育理念・目標を実現するための具体的な計画を持っているか | 2 |
| 1-3 | 学校の特色として挙げられるものがあるか | 3 |
| 1-4 | 学校の将来構想があるか | 3 |
| 1-5 | 理念に基づく教育が行われているか | 3 |

現状、具体的な取り組み及び課題

教育理念・目標は定めているが、それらを実現するための計画の具体性・妥当性については、再検討する必要がある。また、理念に基づく教育の実施については、教員間で認識のずれが生じることがあったため、定例会議の中で都度周知していく。

学校の特色としては、進学希望の学生を軸に日本語習得及び進学指導をきめ細やかに行うこと、4技能を総合的に伸ばしつつN2取得を目指すこと、日本語能力だけでなく日本の社会生活・習慣・伝統文化・日本事情など幅広い視野を持った人材を育てることを目標にしている。

2. 学校運営

| | 評価項目 | 評価 |
|-----|---|----|
| 2-1 | 運営方針は定められているか | 3 |
| 2-2 | 事業計画は定められているか | 3 |
| 2-3 | 運営組織や意思決定機能は確立され、効果的なものになっているか | 4 |
| 2-4 | 人事や賃金での処理・職場環境の改善に関する制度は整備されているか | 4 |
| 2-5 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 4 |
| 2-6 | 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか | 3 |
| 2-7 | 危機管理体制は整備されているか | 3 |
| 2-8 | 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか | 4 |

現状、具体的な取り組み及び課題

組織体制や運営の整備については、昨年に比べ大幅に改善した。また、定例会議により運営が明確化でき、一定の効果が得られた。

人事や賃金面での処遇については、社外研修を取り入れ、キャリアアップをしたことで改善方向にある。

学校管理システムの活用により、学生の在籍に係る管理や各省庁への届出等が電子化され、業務の効率化が図られている。危機管理体制については、改善の余地がある。

3. 教職員

| | 評価項目 | 評価 |
|-----|----------------------------|----|
| 3-1 | 教育理念・目的が教職員間で共有されているか | 3 |
| 3-2 | 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか | 2 |
| 3-3 | 教育評価を行っているか | 2 |
| 3-4 | 人事評価制度は整備されているか | 2 |
| 3-5 | 昇進昇格制度は整備されているか | 2 |

現状、具体的な取り組み及び課題

教育理念・目的は教職員間で共有されているが、統一できていない部分もあり、共通の認識をもつため、定例会議で都度確認する。
教員が参照できる資料・書籍は常に閲覧可能な環境を整備しており、各教科書や各試験対策問題集まで取り揃えている。
教育評価については、一昨年より学生アンケートを実施し、自身の授業を振り返る機会を設けたり、授業見学を実施し、フィードバックをして授業の改善点などを話したりする等、教員のスキルアップを図る取り組みを進めている。
人事評価・昇進昇格制度については、今後改善する余地がある。

4. 採用と育成

| | 評価項目 | 評価 |
|-----|--------------------------|----|
| 4-1 | 教職員の採用制度は整備されているか | 3 |
| 4-2 | 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか | 2 |

現状、具体的な取り組み及び課題

教職員の採用制度については、学校独自の評価項目を設けており、それに応じて採用を行っている。
人材の育成については、初任の教員に対して有償の研修を実施したり、職員研修を実施したりすることにより、教職員の育成を図っているが、事務職員における人材確保の面では理想の人数に達するまでには至っていない。今後も人材の確保に取り組んでいく。

5. 教育活動

| | 評価項目 | 評価 |
|-----|-------------------------------------|----|
| 5-1 | 理念・教育目標に合致したコース設定が行われているか | 3 |
| 5-2 | カリキュラムは体系的に編集されているか | 3 |
| 5-3 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 3 |
| 5-4 | 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか | 3 |
| 5-5 | 教育内容及び教育方法について、教員間で共通理解が得られているか | 3 |
| 5-6 | 進級、修了、卒業の判断基準が明確であるか | 3 |
| 5-7 | 成績評価は適切に行われているか | 3 |

| | | |
|------|-----------------------------|---|
| 5-8 | 成績や進級の条件等を学生に周知できているか | 3 |
| 5-9 | 授業に必要な教材など十分に揃っているか | 4 |
| 5-10 | 各種日本語試験の認定向上のための指導体制は整っているか | 4 |

現状、具体的な取り組み及び課題

教育内容・教育方法については、非常勤講師を含めた教員会議を定期的を実施し、学校の方針として取り決めるようにしているが、個々の実力に差があるため、目標達成に向けて教員の資質を上げることが課題である。

また、成績評価については、学校独自の基準を設けているが、妥当性については検証段階であるため、妥当な成績評価をいち早く確立することが課題である。

進級、修了、卒業の判断基準はあるものの明確ではないため、学生への周知や教員間での共通認識が持てていなかった。この点についても、今後改善の余地がある。

6. 学生支援と生活指導

| | 評価項目 | 評価 |
|------|--|----|
| 6-1 | 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか | 3 |
| 6-2 | 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか | 3 |
| 6-3 | 学生の心身の健康管理・事故・ケガに対するサポート体制があり、有効に機能しているか | 2 |
| 6-4 | 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか | 3 |
| 6-5 | 保護者と適切に連携しているか | 2 |
| 6-6 | 休日及び長期休暇時の学生対応はできているか | 3 |
| 6-7 | 入学直後のオリエンテーションを実施しているか | 3 |
| 6-8 | 生活に関するオリエンテーションを実施しているか | 3 |
| 6-9 | 常に最新の学生情報を把握しているか | 2 |
| 6-10 | 卒業生への支援体制はあるか | 2 |

現状、具体的な取り組み及び課題

進学指導に関しては、教職員で役割分担をし、学生が相談しやすい体制を整え、学生に合った指導を実施した。しかし、就職を希望する学生に対する指導は、模索的な部分があるため、今後も課題である。

学生相談等のサポートは、SNS を通じて学生と常に連絡を取り合えるよう環境を整えている。相談内容によって、各担当者へつないでおり、サポート体制は有効に機能している。入国後はすぐにオリエンテーションを実施し、学校の規則について多言語で説明をし、また日本で安全に生活するための指導をおこなっている。

学生情報の把握作業は定期的に行っているが、学生からの報告漏れがしばしば見られる。2024 年度からは、学生自身が個人の ID を使用しシステムに登録している情報を確認・変更できるようになったので、情報変更の報告漏れを減らしていく。

また、卒業生への支援体制については、進路指導担当者とクラス担任が協力し、卒業後も支援を実施している。

7. 入国・在留管理

| | 評価項目 | 評価 |
|-----|------------------------------------|----|
| 7-1 | 研修受講等により、最新の情報収集を継続的に行っているか | 3 |
| 7-2 | 入国・在留関係の管理、指導を定期的に行っているか | 2 |
| 7-3 | 在留上問題のある学生及び問題になり得る学生の指導を個別に行っているか | 2 |

現状、具体的な取り組み及び課題

在留管理担当者が定期的に外部の研修等に参加し、情報収集に努めた。今後は教員も含め研修への参加機会を増やし、最新の情報を収集する。

入国前、入国時、入学数か月後に在留に関する指導を行っている。今後も定期的を実施し、学生の在留管理を行う。

在留上問題のある学生及び問題になり得る学生の指導を個別に行っているが、改善の余地があり、今後も教職員で模索しながら適正な学生管理に努めたい。

8. 学生の募集と受入

| | 評価項目 | 評価 |
|-----|-----------------------------------|----|
| 8-1 | 学生の受入方針は定められているか | 4 |
| 8-2 | 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| 8-3 | 募集担当職員は学校の情報を正しく認識した上で入学相談を行っているか | 4 |

| | | |
|-----|-----------------------------|---|
| 8-4 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 4 |
| 8-5 | 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか | 4 |
| 8-6 | 適正な定員設定及び在籍者数になっているか | 5 |

現状、具体的な取り組み及び課題

上半期、学生募集活動における体制がうまく機能できていない部分があったため体制を改め、下半期には一定の効果が見られた。今後も、複数人体制で募集・受け入れを実施していく。

9. 財務

| | 評価項目 | 評価 |
|-----|--------------------------|----|
| 9-1 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | * |
| 9-2 | 予算・収支計画の有効性及び妥当性は保たれているか | * |
| 9-3 | 財務について適正な会計監査が実施されているか | * |
| 9-4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | * |

10. 法令の遵守

| | 評価項目 | 評価 |
|------|----------------------------------|----|
| 10-1 | 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 3 |
| 10-2 | 教職員のコンプライアンス意識を高めるための取り組みを行っているか | 2 |
| 10-3 | 教職員の個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 10-4 | 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 2 |
| 10-5 | 自己点検・自己評価結果を公開しているか | 2 |
| 10-6 | 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか | 2 |

現状、具体的な取り組み及び課題

教職員のコンプライアンス意識を高めるため、外部研修を取り入れたことに一定の効果があつた。今後も、定期的に社内外研修を実施したい。
教職員の個人情報に関しては、担当者以外は閲覧・扱えないよう厳重に管理している。
自己点検・自己評価の結果は学校のホームページで公開している。
また、関係省庁への定期報告を遅延なく実施している。

11. 社会貢献

| | 評価項目 | 評価 |
|------|----------------------------|----|
| 11-1 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか | 3 |
| 11-2 | 学生のボランティア活動を支援しているか | 2 |

現状、具体的な取り組み及び課題

学校の教育資源や施設を活用し、近隣の日本語講師養成講座の受講生の実習の受け入れをしている。
学生のボランティア活動については、地域のボランティア活動の情報収集が不十分で、学校生活の中で実施出来ていないため、今後は地域と接することのできる活動を増やしていきたい、社会貢献できる人材育成に注力していきたい。